

子どもたちの明日

Children, Our Future

2024年3月

139号

目次

- ・CYKで達成できたこと 1頁
- ・「村の幼稚園」事業の自立へ 2頁
- ・最後の「布チョッキン」が届いた! 4頁
- ・国内事業・CYR情報 4頁



CYKで達成できたこと

2019年から保育事業アドバイザーとしてCYK（Caring for Young Khmer）の保育事業を推し進めてきたオウム・ソパニーさんに「村の幼稚園」の成果について話を伺いました。ソパニーさんは、教育省の幼稚園事務所所長だった頃からやりたいと思っていたことが、3つあります。一つ目は保育者が自信を持って仕事を続けられるようにすること、二つ目は子どもの教育に関わる全ての人が協力しあって幼児教育の計画や予算をよく話し合い、一緒に問題を解決できる関係づくり、三つ目が地域の人たちにもっと幼稚園のこと教育の大切さをわかってもらい、幼児教育に対する大人の責任、子どもの良い育ち方をしっかりと伝えたいという思いです。

保育者の自信

保育者は、自分の役割を理解し、保育の知識と技術を学んで力をつけることで、自信を持って仕事を続けることができます。今年は、地域幼稚園の規準の一

つにある学習コーナーの教材作りワークショップを開催しました。身近に手に入れやすい竹や椰子の種、空き缶やペットボトルなども持ち寄り、文字の教材やゲーム等28種類の教材を製作しました。子どもたちが新しい教材をすぐに喜んで使っている様子に、保育者は、自分たちで、もっと教材を作りたいと意欲的です。

保育者の研修で留意してやってきたことの一つに実践練習があります。研修では、知ってほしい研修内容を説明した上で練習する機会を作ります。実際に子どもに指導する時と同じようにやってみます。そのデモンストレーションを見て、他の保育者やCYKの保育チーム、州や郡のトレーナーがフィードバックするので、よく理解できるようになりました。グループワークも毎回取り入れ、お互いに良かった点、足りない点などをアドバイスしました。研修を重ね、3年間の間に、最初は難しかったカリキュラムに沿って教える日案の保育計画を書けるよ

うになりました。新しい教え方を吸収できたことで、自信とやりがいを持って仕事に取り組んでいるのが感じられます。

問題解決の体制

2023年度は、2022年度に開設した2園と今年度開設した3園の幼稚園管理委員会のメンバーの勉強会を実施しました。月間・年間の幼稚園クラス開発計画を立て、幼稚園に必要なものを提供できるようになりました。例えば、子どものコップや手拭きをかける棚や花壇を作りました。外遊具を設置するために、園庭に土を埋めた園もあります。今年度が開園した幼稚園の管理委員会は国旗掲揚台や花壇を作り、学習コーナーの教材を置くテーブルを準備しました。参加した5村の管理委員会は変わってきていますが、変化の早い村と遅い村があります。村人の生活が良い、委員会のメンバーがよく協力し合うところは、勉強会で作った年間計画は早く実施できています。ところが、村人の生活が大変なところは、

計画の実施が遅く資金調達をまだ郡の幼児教育担当者や小学校の校長先生に頼っています。ですから2024年度以降も委員会が幼稚園の運営がうまくできている幼稚園と意見交換・交流ができる機会と委員会のメンバー全員が参加できる勉強会の機会を持てるよう進めていきます。

「村の幼稚園」の管理委員会メンバーが年間計画を立て、振り返り会議で達成点や達成できなかった項目を検証評価し、問題を解決できる運営が可能になりました。研修会、交流会、振り返り会議の全てにおいて州や郡の担当者や地区評議会と保護者と幼稚園の運営を検討することで、一方的な通知ではない、地域の繋がりを強めることもできています。

大人の責任

コンポンチュナン州では6郡18村に「村の幼稚園」が開設されています。これらの郡の幼児教育担当者も、CYKと一緒に様々な研修を通して、できるようになったことがたくさんあります。モニタリングの時の観察方法、保育者へのアドバイスの仕方、保育者記録ノートの記入内容や会議で話し合う内容の選び方、会議の運営の仕方などです。月間・年間のクラスの計画づくりの方法も今では自ら指導しています。

「村の幼稚園」で学んだことを他の幼稚園へ広げていく動きも出てきています。今年の保育者の集中研修には、8名の「村の幼稚園」の保育者以外に24名の地域幼稚園の保育者が参加しました。それは研修を受けたことのない保育者に地域幼稚園の規準や保育者の仕事や教材づくりについて学んで欲しいという郡の担当者の推薦でした。

郡の担当者は、「木曜日の技術会議でも保育者の保育技術を高めていきたい。CYKの研修でよく理解した内容を郡内の幼稚園の保育者に教え、子どもたちに質の良い保育ができる幼稚園



にしていきたい。CYKで行っていたテレグラムグループを作り、郡内の幼稚園の情報交換、連絡事項、報告や相談などで保育者同士が繋がる機会にしたい」と話しています。

そして、保育者の手引書

CYKで達成したいと最初から考えていたことは保育者の手引書の作成です。教育省の統一カリキュラムには、何月何日はどの科目にどんな教材を使って教えるか細かく指定されています。しかし、配布されている幼稚園教育要領の説明は専門用語が難しく、手に入らない教材もあるため、多くの保育者が活用できず、カリキュラムにある科目ごとの保育活動が適切に行えません。CYKは毎月のモニタリングでくり返し説明してきました。その経験をもとに、より多くの地域幼稚園の保育者がカリキュラムに沿って適切な保育を実践していけるよう、具体的な遊びと説明をつけた「保育者の手引書」を作り、わからなくなった時には何度でも見返せるようにしていきたいと思っています。

「村の幼稚園」事業の自立へ

ブノンペン事務所長チャン・スレイ

カンボジア難民キャンプでの活動をきっかけに、CYR(幼い難民を考える会)が設立されてから2023年で43周年を迎えました。カンボジアへ活動地を移してから32年。農村の保育支援から始まり、都市貧困層の子どもを対象とした現地NGOへの協力、公立幼稚園、公立地域幼稚園の支援と活動を広げてきました。

そして2011年からは、より多くの子どもが集団生活に慣れ、楽しく遊び、教育を受けることができる場所を増やしていきたいと、1日3時間保育の「村の幼稚園」事業を始めました。幼稚園のない農村で地域の人々が自ら幼稚園を運営し、質の高い保育を行うモデル園としてその役割と期待に少しでも応えることができたのではないかと感じています。

地域の要請を受けて

地域の人たちの幼稚園を開きたい、自分たちで運営していきたいという思いをうけ、州や郡の教育局の幼児教育

担当者と「村日幼稚園」開設までの全ての行程を一緒に行ってきました。要望のある地域の調査、運営委員会の立ち上げ・契約、園舎の建設、シーソーと滑り台の遊具の設置まで、そして「村の幼稚園」開設前の保育者事前研修・実務研修実施、教材・備品や飾りなどクラスの準備をし、保護者会で協力を呼びかけてから開園までのすべての行程です。

そして地域での継続運営に大事な保育者や保護者、幼稚園運営委員会の研修も州や「村の幼稚園」のある郡の担当者にコアトレーナーを担っていただき、一緒に指導内容や指導方法などを検討して進めてきました。ですから事業の州政府への移管に関して心配はありませんでした。

引き継がれる研修

2023年度はじめに事業の移管についてコンポンチュナン州の教育局に相談した時、そしてその後の話し合いでも、州や郡がどのように「村の幼稚園」事業を引き継いで続けていくのかもお尋ねしました。

事業移管のあとは、州と郡の幼児教育事務所が「村の幼稚園」のモニタリングを行うための予算をそれぞれ州と郡の担当者、地区評議会の子どもの担当者がやりくりして、毎月のモニタリング研修を続けていきます。モニタリング研修以外の研修については、保育者の集中研修のようにまとめて10日間の研修会を行うのは難しいです。しかし現在郡ごとに毎月1回行っている木曜日の技術会議の運営方法を見直し、保育者が必要としている技術の研修などにもっと力を入れて、この木曜日に保育者の技術研修や交流研修を行う計画を立てて準備しています。州内の研修に「村の幼稚園」の保育者を招待することなどを計画に入れたそうです。ですから2024年度以降「村の幼稚園」の継続運営は間違いなくそれぞれの地域でコンポンチュナン州や郡の幼児教育事務所へ引き継がれ、地域に根



付いて行く実感しています。

強まる地域内での連携

2023年8月に出張時の藤川代表理事は、コンポンチュナン州の教育局のスム・ソピャック副局長との面談で2024年度からの「村の幼稚園」事業の州教育局への移管についても状況を確認しました。ソベアさんは次のように話していました。「CYR/CYKが推し進めている「村の幼稚園」は、地域の関心に根ざした幼児教育のよい実践例であり、モデル幼稚園として、他の地域幼稚園の保育者が見学したり学ぶことができるとても素晴らしい幼稚園の運営方法です。私たち州や郡の幼児教育担当者もCYKと一緒に様々な研修を行ってきたので、大変勉強になりました。郡の幼児教育担当者も研修で実践した指導法を他の研修や保育者の木曜技術会議などにも応用できるようになりました。特に地域の幼稚園運営委員会のメンバーの勉強会は他の州で実践しているところはなく、参加者は自分たちの仕事と役割、責任をよく理解され、私たちも地区評議会との協力を強めることができてきました。これからも幼稚園の開設1年目、2年目、3年目の「村の幼稚園」の来年度からの支援とフォローアップは、わた

したちが郡の担当者や地区評議会と連携して進めていきます」と話していました。

2月に行われた幼稚園運営委員会の振り返り会議でも、州や郡の担当者も同席して、2023年度の委員会の研修に参加しなかったメンバーと考え方を共有し、2024年の年間計画の検討も行われました。地域の女性と子どもの担当者の幼稚園へのモニタリングの計画と予算を組み込み、この計画を地区長に提出し地区長の確認のサインがいただければ、地区評議会からの幼稚園の年間計画への協力が期待できます。

ご支援者のみなさまへの感謝

日本のご支援者の皆様には、これまで長い間、カンボジアの子どもたちの活動にご理解とご協力をいただき感謝の思いでいっぱいです。わたしも保育者や地域の方々、州や郡の方々と一緒に仕事をさせていただき、幼稚園の運営が自分たちでできるようになるには何が大事かという貴重な経験をしました。この学びを活かしこれからも同じ思いを持つ人たちと一緒に幼稚園の支援などでも自分ができることをしていきたいと思っています。

最後の「布チョッキン」 教材が届いた！

「みんなで布チョッキン」活動を通して日本から寄贈され、村の保護者や保育者が縫い上げる人形やボールはどこ
の幼稚園でも人気で子どもたちに親しまれています。事業最終年の今年、贈られた全ての布を遊具に仕立て希望する幼稚園に提供することができました。

保育教材は、布ボールと人形に加え、カンボジア語の子音ポスターとカンボジア語に翻訳された絵本「はははのはなし」です。（この度の増刷はNPOカムカムクメールのご支援をいただきました。）配布先は要請を受けたコンポンスプー州、カンポンチャム州とプルサット州の地域幼稚園 546 クラスと公立幼稚園 1,212 クラス、計 1,758 クラスです。提供先が 26 郡と大変多いため、各郡の事務所に同時進行でバスか乗り合いタクシーで届くようにと話し合いました。当初、保育者がすぐに持ち帰って使えるようクラスごとに教材をセットにして梱包しましたが、ダンボール箱の購入費が
かかり、箱の数で運賃も計算されて



しまうため、郡ごとにまとめて大きな袋に入れ、保育者の持ち帰り用ビニール袋も入れて送ることにしました。それでも最初にプルサット州にバスで送ったら送り賃が予想以上に高く予算内に収まりません。そのため CYK の車を使って、同じ方向の 2 郡から 4 郡分の教材を運ぶことにし、早朝 4 時に運転手のソックさんがプノンペンを出発して届けました。

教材は各郡で月 1 回実施される木曜日の技術会議で使い方を説明し、参加した保育者に配りました。それぞれの会場で「5 歳児の身体能力や

言葉のテストに使いたいと思っていた。市場では売っていない」と好評で、スポンジにテープを巻いてボール遊びをしていた先生は「こんなに綺麗なボールならきっと楽しく遊べる」、クラスに虫歯の子どもが多いという保育者は「この絵本があれば、子どもたちに虫歯の話ができる」と嬉しそうでした。

各州の技術会議で一度教材の説明を行い、直接保育者に配布したプノンペン事務所長のスレイさんは、とても喜んでもらった、全部配布が終わってホッとしましたと話しています。

2023 年 11 月～3 月 国内事業

【東京事務所や会員・ボランティアによる募金活動】

12 月 9 日(土) FSC によるクリスマスコンサート

12 月 21 日(木) カンターテドミノによるミサコンサート

* カレンダーのご購入、ありがとうございました。

* 3 年ぶりのグレゴリオ聖歌の美しい響きに耳をかたむけながら、参列者一同、心をひとつに世界の平和と子どもたちのすこやかな成長を願いました。

CYR 情報

第 23 回定時総会開催の予定

2024 年 5 月 25 日(土) 午後 3 時より

臨場(東京事務所)とオンラインの併用で開催します。詳細は 4 月下旬に郵送する総会招集のご案内をご覧ください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227

三菱 UFJ 銀行 六本木支店(普通) 1351747

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 139 号

発行日: 2024 年 3 月 31 日 発行者: 藤川 祥子

プノンペン事務所(CYK)

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55, St.05, Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 882 972 FAX: (+855) 23 882 971

Email: info@cyk.org.kh

URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所(CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル3B

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: <https://www.cyr.or.jp/>